

効率的・効果的な
行政経営を目指して

日光市の進める

行政改革

くわしくは 総務部 行政改革課 ☎(25)7722

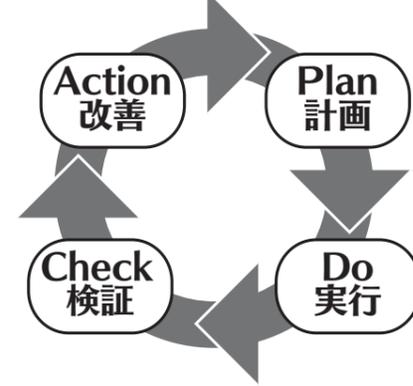


市は、行政改革に積極的に取り組み、効率的かつ効果的な行政経営に努めています。今回は、その取り組みの中から、行政評価の実施状況と職員が自ら改善に取り組む業務改善活動制度についてお知らせします。

1 日光市の「行政評価」制度

市は、市の事業について評価検証し、見直しを行うために、毎年度職員自身が「過年度の事務事業に関する行政評価」を行っています。行政評価制度の目的は、事業を検証し改善に取り組む「PDCAサイクル」(下図)の定着や、事務事業の積み上げが施策全体の成果につながる

図：PDCA サイクル



る体制づくり、行政経営の適正化を図ることです。今年度は、市の政策・施策を計画的に実行するために総合計画と連動・連携を図り、評価が次の事業展開に生かされるよう、様式の変更な

ど制度の改善を行いました。今年度の評価対象は、平成25年度に行った事業のうち、総合計画実施計画に位置付けられた施策52分野の658の個別事務事業としました。評価の方法は、個別の事業を施策の目的に照らし合わせ、達成にどの程度貢献できたのか、状況を進捗率として評価しました。評価が低かったものは、原因の掘り下げと今後の事業の方向性を検討しました。なお、事業の方向性の判断については、施策の中で事業がどのような役割を持って、次年度以降に展開すべきか、事業の必要性を見極める視点から取捨選択を行っています。評価結果については、下表のとおり

表：行政評価の結果

評価結果		事業数
方向性の標記	方向性の考え方	
拡大	事業拡大(強化)	58
継続	現状維持	539
縮小	事業縮小	7
完了	事業目的達成	45
廃止	継続不要・事業集約	9

りです。なお、詳細は市ホームページや市役所本庁舎2階の情報公開コーナーで、評価内容を全て公表しています。

2 「業務改善活動制度」の実施

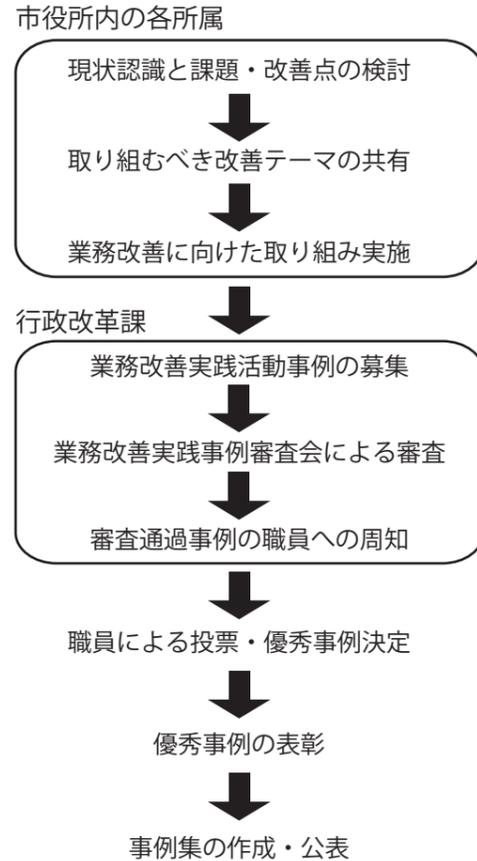
職員自らの改善意識・意欲の啓発を目的として、平成24年度から業務改善活動制度を実施しています。改善に向けた取り組みを全職員で共有・評価することで、職員の意識改革や能力、やる気を高めて、事務の効率化や経費節減、市民サービスの向上につなげます。また、更なる改善への動機付けや改善に取り組みやすい組織環境を目指します。制度の愛称は、職員が業務改善に気軽に取り組みやすくするため、職員発案の「日光仮面の知恵袋」としました。具体的な取り組みとしては、まずは職員自らが携わる業務を見直し、より効率的・効果的な手法を考え、

職員の創意工夫で改善に取り組みます。経費を掛けず、職員の知恵を生かす部分のポイントです。実践内容を取りまとめ、成果を情報共有することで、成果を認め合います。また、職員投票でも表彰することで、改善内容に関心を持ってもらう工夫をしています。今年度は各所属から48の事例が報告されました。内部審査や職員投票などを経て、他の模範となる優秀な事例を選定し、各賞を表彰しました。



表彰式の様子

図：業務改善活動制度の流れ



今年度の「日光仮面の知恵袋大賞」(最優秀賞) 事例紹介

「子育て支援窓口」に子どもの遊び場を設置 健康福祉部 子育て支援課

●課題

子育て支援課の窓口で保護者が手続きをしている間、小さな子どもがぐずぐずしてしまうことがよくありました。

保護者と一緒に窓口の椅子に座っても、テーブルが高すぎてうまく遊べず、子どもが床に座っておもちゃを並べて遊んでいる光景も多く見られました。

このため、保護者が手続きに集中できず、また衛生的にも問題があるように思えたことが、今回の業務改善活動を実施するきっかけになりました。

●工夫と成果

窓口を整理してスペースを作り、プレイマットを敷いてそ



子育て支援課に設置された、子どもの遊び場

の上で子どもが遊べるようにしました。子どもは、靴を脱いでプレイマットの上で衛生的に遊ぶようになり、保護者は手続きに集中できるようになりました。その結果、窓口での対応時間が短縮され、業務の効率化が図れました。

※その他の各賞受賞事例や、今年度、過年度の全ての改善取り組み事例は、市ホームページで公表しています。